

まちづくりの基本理念と将来像について

(まちづくりの基本理念 案)

“小さくて キラリ と輝くまちづくり”

本町は、県内で最も小さな自治体です。また、財政規模もけっして大きくありません。

しかし、この小さな町の中には、穏やかに暮らすことのできる住宅地や生活関連施設などがコンパクトにまとまった豊かな生活空間が広がっています。また、地域の行事や活動などを通じて、住民同士、住民と行政がお互いに顔の見える関係をつくりやすく、地域の密接なつながりも育まれています。

そして、県営名古屋空港や名古屋市中央卸売市場北部市場という特徴的な施設が立地しています。空港周辺には、国産初のジェット旅客機の最終組立工場があり、我が国の航空機産業の中核として重要な役割を担っています。

こうした‘小さい町’の特徴や利点を活かしながら、本町ならではの魅力、特徴にさらなる磨きをかけ、住民と行政、住民と住民、それぞれが交流、協働することによって、誰にとっても住んでいることが心地よく感じられ、住民一人ひとりが輝いていられるまちづくりを進めていく必要があります。

こうしたまちづくりを実現していくために、住民が‘誇り’を持てる町、’豊かさ’を実感できる町、小さいからこそキラリと光ることのできる「小さくてキラリと輝く町」を築き上げていくことをまちづくりの基本理念とします。

(まちの将来像 案)

“一人ひとりが輝く 暮らし豊かな アーバンビレッジ”

平成22年に策定した第4次総合計画では、まちの将来像を「にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ」とし、まちづくりを推進してきました。

都市の利便さを持ちつつも、大きな空が広がり緑も残るおだやかな環境の中、この10年で、町の人口は着実に増加しています。県営名古屋空港の利用者数も倍増し、あいち航空ミュージアムといった新たな集客施設も完成し、にぎわいを実感できる町となりました。

第5次総合計画では、これまでの取組みを発展・深化させ、住民一人ひとりが健康で安心して暮らし、生涯を通じて生きがいを持って一層いきいきと活躍できるまち「一人ひとりが輝く 暮らし豊かな アーバンビレッジ」を目指します。

※設定の考え方：

平成 30 年度「町民討議会議」では、「将来の豊山町のイメージ」について検討いただきました。より多くあげられたものを下表により集約しました。

町の将来像の検討においては、これらのキーワードをはじめ、これまでのまちづくりや社会経済情勢、町の現状や今後の想定を踏まえて設定しました。

安	楽	活	空	健	住	人	交
安心 安全	楽 楽しむ 気楽	活気 活性化 活発 元気 成長 産業	空港 航空 飛行機	健康 健康的	住みたくなる 住みやすい 住んでみたい 生活	人が集まる 人と人 人気 子どもから お年寄りま で 子育て世代 若者 全ての世代	交通便利 交流 移動 移動が活発 つながり にぎやか 多くの方が 訪れる

■将来像の検討イメージ

背景（将来像に込める思い）

- 人生 100 年時代といった社会動向にも柔軟に対応しながら、自分らしい、豊かな未来を描くことができるまちであること。
- 空港県営化以降続く転入による人口増をふまえ、新住民の定着化や地域との交流を促しながら、だれもが住み続けられる・住み続けたいまちとしていくこと。
- 住みやすさに関する評価や居住継続意向の低下傾向（町民意識調査結果）をふまえた、暮らしにかかわる環境づくりの見直しと、まちの魅力を発信していくこと。
- 空港を活かしたまちづくりを継続し、豊山町の賑わいや活力を維持しながら、人々が支え、協力し合い、誰もが安心して豊かに暮らすことができること。